第一工大

龍馬も見た？

土木遺産を学生が解説

第一工科大学社会・地域連携センターはこのほど、霧島市で開催された第27回龍馬ハネムーンウオークin霧島の中で土木遺産「平熊の石洗越（いしあらいごし）」の見学企画を実施した。学生が現地で解説を行い、施設が持つ意義を伝えた。

3年ぶりの開催となったイベント。隼人町にある市指定有形文化財についてパネルを用いて石橋の上を川が流れる珍しさを説明した。土木学会選奨土木遺産としても認定される橋は、大雨での用水路への土砂等流入を防ぐ役割を担う。この日のために準備した通行記念カード500枚は全て配布され、参加者の関心の高さがうかがえた。

イベントを主催する同市観光協会支援のもと進めた今回の取り組み。2000年以上前に架けられた防災施設は以前、現地に草が生い茂るなど「忘れられた存在」であったが現在は地元住民らが手入れをし、田園風景を守る大きな存在として扱われている。

橋長13・3m、幅員7・5mの小さなアーチ橋の価値を説いた環境エネルギー工学科1年の吉武大輝さんは「参加者が実際に橋を見て興味を持ってくれてうれしい。古いものであっても地域の魅力になると分かった」と笑顔で語った。

施設の役割や歴史的価値を学生が伝えた
＝霧島市の現地

鹿児島建設新聞
令和5年4月7日付